



R&I グリーンボンドアセスメント／セカンドオピニオン

合同会社福岡みやこソーラーパワー

2021年9月30日

みやこ SP グリーンローン

ESG 推進室

担当アナリスト：廣方 智章

：GA1（本評価）

：セカンドオピニオン

格付投資情報センター（R&I）は、今次実行するグリーンローンにつき、R&I グリーンボンドアセスメント（本評価）を付与しました。R&Iは予備評価を2021年5月31日に公表しており、今回予備評価を本評価に切り替えたものです。また、グリーンローンフレームワークが「グリーンボンド原則2018」及び「グリーンローン原則2020」に適合している旨のセカンドオピニオンを2021年5月31日に提供しており今回再掲しております。

■対象ローンの概要

名称	みやこ SP グリーンローン
借入人	合同会社福岡みやこソーラーパワー
EPC 事業者兼 O&M 業者	テス・エンジニアリング株式会社
アセットマネジメント業者	テスアセットマネジメント合同会社
貸付限度額	183.4億円
R&I グリーンボンドアセスメント	GA1（本評価）
コミットメント期間	2021年9月～2023年3月
最終期日	2039年9月

■概要

テス・エンジニアリング株式会社（以下、TESS）は、ユーティリティの「省エネ、環境対策専門」のエンジニアリング会社。2021年1月末までに、614件（総発電容量748MW）の太陽光発電システムを施工するなど豊富な実績を持つ。自らEPC・O&M（遠隔監視業務など）を担う案件も数多く、太陽光発電事業全般において高い専門性を有する。

TESSは、「プライム2グリーンボンドプロジェクトボンド 受益権」（2019年12月20日本評価公表）に引き続き、自身が関与する本件の評価を取得する。今後においてもESG関連する調達を積極的に行う方針である。

発行体である合同会社福岡みやこソーラーパワーのグリーンローンフレームワークはスポンサー等であるTESSが、グリーンローン原則（Green Loan Principles）等の4基準である、調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金の管理、レポートングに関する対応方針であるグリーンローンフレ

株式会社格付投資情報センター

Copyright(C) 2021 Rating and Investment Information, Inc. All rights reserved.

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目2番地テラススクエア（お問い合わせ）マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL 03-6273-7471

R&I グリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。R&I グリーンボンドアセスメントは、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、R&I グリーンボンドアセスメントに際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、R&I グリーンボンドアセスメント（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。R&I グリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき <https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

©Rating and Investment Information, Inc.

ームワークを策定し、今般、TESSが建設中の太陽光発電所の建設資金として、当該フレームワークに基づき発電事業者SPCを通じてグリーンローンの借入を検討している。

なお、本件は本プロジェクト専用のSPCを設立し、事業を進めていくプロジェクトファイナンス案件である。評価対象であるグリーンローンは、本プロジェクトを裏付けに実行されるため、グリーンローンフレームワークおよびグリーンローンの評価にあたっては、プロジェクトを資金面管理及び運営面で主体となるTESSを発行体と同等の位置付けで評価した。

■ R&Iグリーンボンドアセスメント

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントに定める評価方法に従い、本グリーンローンの調達資金が環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1（本評価）を付与した。

【項目別評価】

項目	評価
調達資金の用途	
プロジェクトの評価と選定のプロセス	
調達資金の管理	
レポーティング	
発行体の環境活動	

※ 各項目を5段階で評価し、（最上位）から（最下位）で表示している。

■ グリーンローン原則等に適合する旨のセカンドオピニオン（再掲）

本グリーンローンフレームワークがグリーンボンド原則2018¹およびグリーンローン原則2020²（以下総称して、グリーンローン原則等）に則ったものである旨のセカンドオピニオンを提供する。

なお、今回発行を予定しているグリーンローンについて、ローンの実行額や期間、具体的な対象事業・資産の内容や充当スケジュール等の内容を踏まえ、フレームワークに則ったものとなっていることを確認している。

■ 評価理由

- グリーンローンで調達された資金は、TESSが開発中の太陽光発電所の開発資金に充当される。当該発電所の所在地は、福岡県京都群みやこ町にあり、TESSはEPC及びO&Mを務める。資金用途は再生可能エネルギー発電事業であり、十分な環境改善効果（CO2削減効果）が見込める事業である。また、開発時等において環境への配慮がなされていることから、環境問題の解決に資する度合いは高いと判断した。
- グリーンローンの対象事業の選定は、事業開発本部が中心となり、エンジニアリング本部等と協議したうえで事業計画を立案し、経営会議にて決裁され、組織的な選定プロセスを経ている。また、本プロジェクトは、TESSの経営理念やISO14001に沿った環境方針などに則ったものとなっている。
- 本プロジェクト総額は本グリーンローンによる調達資金を上回っている。また、調達資金が充当されるタイミングについては、開発の進捗に応じて概ね2年以内（1年以内に約9割充当）に充当される予定である。
- 未充当資金は、プロジェクトSPCの専用口座に預金で管理される。引き出しを行う際は、前提条件（CP）充足の確認を経たうえで行われ、厳密に管理される。投資家に対しては、定期的なプロジェクトの進行状況の報告がなされ、資金の充当状況については、必要な承諾を得るとともに充当状況の報告がなされる予定である。

¹ ICMA（International Capital Market Association）が策定、運営するGreen Bond Principles（GBP）の2018年版

² LMA（Loan Market Association）、APLMA（Asia Pacific Loan Market Association）が2018年3月に策定し、LSTA（Loan Syndications and Trading Association）も参画して運営するGreen Loan Principles（GLP）

- ・ レポーティングについては年に一度、TESS のホームページにおいて、資金充当状況と CO2 削減量が開示される予定である。
- ・ TESS は、1979 年の創業時からユーティリティの「省エネ、環境対策専門」のエンジニアリング会社として活動してきた。今般資金使途となる太陽光発電事業業務においては全般に渡って豊富な経験と高い専門性を有する。

■ テス・エンジニアリング株式会社の概要

テス・エンジニアリング株式会社 (TESS) は、1979 年に創業したユーティリティの「省エネ、環境対策専門」のエンジニアリング会社。オイルショック後の省エネ対策として工場やホテル、病院など大量にエネルギーを消費する施設向けに分散型電源であるコージェネレーションシステムを手掛けてきた強みを背景に、1990 年代からコージェネレーションシステムに太陽光発電を組み合わせた「太陽光複合コージェネレーションシステム」を提供するなど、太陽光発電の施工実績を積んできた。

2012 年に固定価格買取制度 (FIT 制度) が開始してからは太陽光発電システムの施工、設置事業を展開。自社でも太陽光発電所を所有し発電事業や電力小売り事業に参入してきた結果、2021 年 1 月末時点で日本国内に 614 件 (総発電量 748MW) の稼働済太陽光発電実績を有している。自ら EPC、O&M、遠隔監視業務を担う案件も数多く、太陽光発電事業全般において高い専門性を有する。

「顧客重視・顧客満足」を企業理念として顧客のエネルギー問題の解決に励みつつ、「主力商品であるコージェネレーションシステム及び各種環境・省エネシステムを通じて地球温暖化と環境保全に貢献」することを環境方針に据え、品質・環境マネジメントシステムを実践しながら地球にやさしい企業活動に努めている。

TESS は、こうした取り組みの一環として、今般、発行体であるみやこ SP のグリーンローンフレームワークの作成を代行し、みやこ SP による同フレームワークに基づくグリーンローンの借入の検討を支援している。

■ グリーンローンフレームワーク(みやこ SP グリーンローン)の概要

合同会社福岡みやこソーラーパワー（みやこSP）は、グリーンボンド等の発行に当たり、グリーンローン原則（Green Loan Principles）等の4基準である、調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティングに関する発行体の対応方針であるグリーンローンフレームワークを作成した。本フレームワークの概要は、以下の通りである。

1. 調達資金の使途：Use of Proceeds

- グリーンボンド等の調達資金は、以下の選定基準を満たす事業に充当される予定である。

事業区分	事業概要
再生可能エネルギー	太陽光発電所

- 対象事業は、テス・エンジニアリング株式会社（TESS）をEPC事業者として開発する再生可能エネルギー事業（太陽光発電所）。
- プロジェクトファイナンス形式で資金調達を行うため、調達資金は発電事業者（みやこSP）にかかる支出に充当される。
- みやこSPは、グリーンローン等を発行し、裏付となるグリーン資産の組替えは行わないこととしている。
- 環境面において太陽光発電事業に伴う潜在的なネガティブ効果としては、一般的に、大規模な土地造成に伴う生態系の破壊や悪影響、濁水の流出、光害・景観への悪影響、関連設備からの騒音・振動などが挙げられる。TESSが開発する発電所は、林地開発や環境保全等の環境に関する法令、条例等を満たしたうえで発電所の建設を行うほか、近隣住民等への説明を実施しており、環境面や社会面へのネガティブな効果に配慮した事業を行う方針としている。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス : Process for Project Evaluation and Selection

- TESSは、省エネルギーおよび再生可能エネルギーの専門事業者として、社名の由来にもなっている「Total Energy Saving & Solution」の実現に向けて、「エネルギーの安定供給」、「省エネルギー化の推進」、「再生可能エネルギーの普及」の3つを柱にビジネスを展開していくことを事業方針に掲げている。その他にも「顧客重視・顧客満足」といった企業理念や、ISO14001に沿った品質環境方針を制定している。

企業理念

顧客重視・顧客満足

テスト・エンジニアリングの企業理念は、「顧客重視・顧客満足」です。

当社は各種環境・省エネ対策システム1,000件以上の豊富な実績に基づく確かな技術と、現場経験豊かな技術社員による的確なフォロー体制で、お客様のエネルギー問題を解決しています。これからも、よりお客様に喜ばれる企業を目指します。

経営理念

◆「顧客重視・顧客満足」

私たちは、企業理念である「顧客重視・顧客満足」のもと、グループ一丸となってお客さまのエネルギー問題に真剣に取り組むことを第一とします。さらに、事業を通じて社会的責任を果たしながら長期的成長を目指すことで、ステークホルダーの皆さまの期待にお応えします。

品質・環境方針

テス・エンジニアリングは、企業理念として「顧客重視・顧客満足」を掲げています。

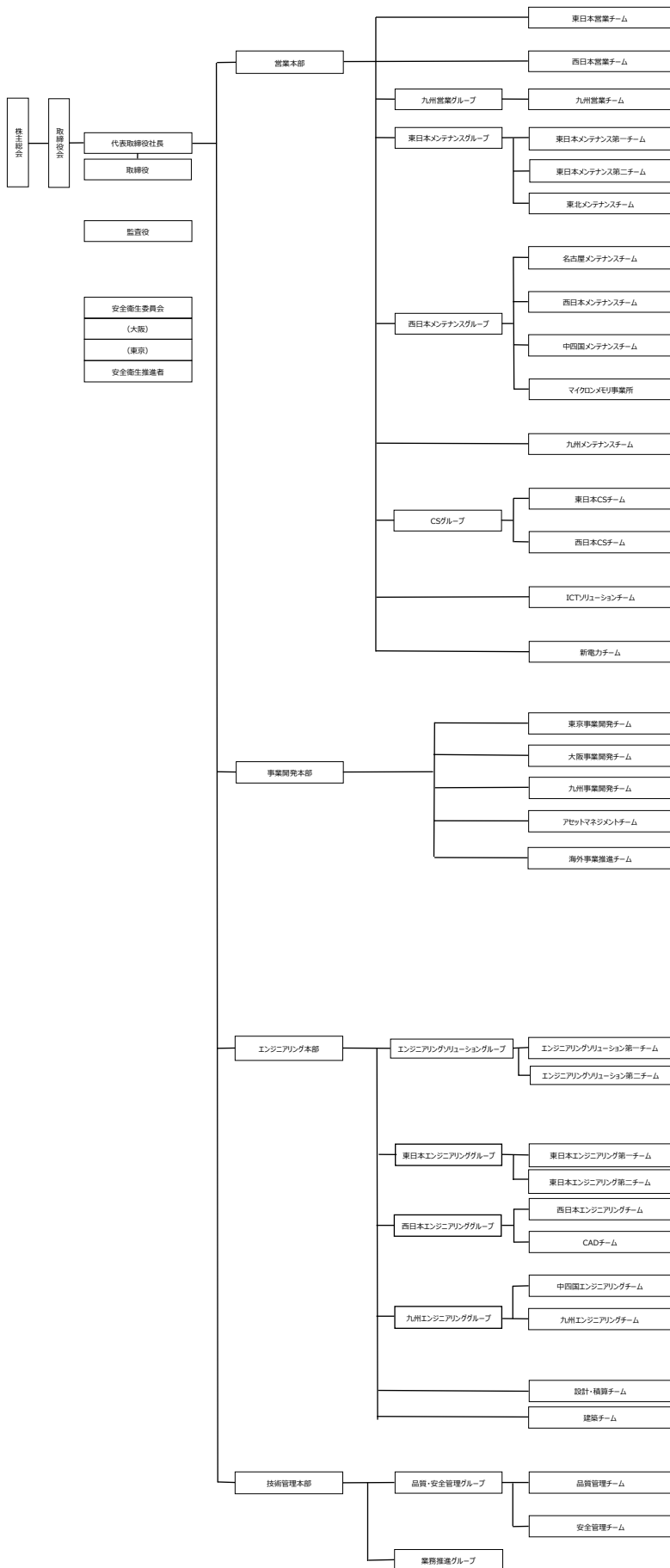
顧客の抱える様々な問題の解決に貢献するために、企業理念を具体化する活動の一環として、品質・環境マネジメントシステムを構築しました。

以下の「品質・環境方針」に基づいて、地球にやさしい企業活動を達成するために品質・環境マネジメントシステムを実践し、継続的改善に努めます。

- 1.顧客とのコミュニケーションを重視し、顧客要求事項に適合した製品及びサービスを提供します。
- 2.事業活動に適用される法令及び規則・要求事項を順守します。
- 3.目的及び目標を設定し、その達成に向けて全員参加で品質・環境活動を推進します。
- 4.事業活動のあらゆる場面でPDCAを実践することで、企業体質の強化及び企業価値向上の実現に努めます。
- 5.当社の主力商品であるコージェネレーションシステム及び各種環境・省エネシステムを通して、地球温暖化防止と環境保全に貢献します。
- 6.この方針を役員及び従業員に周知徹底し、更に一般の人々が入手可能である状態にします。



- ・ TESSは、当該理念や、ISO14001に沿った環境方針に則り、再生可能エネルギーの普及を通じて、地球環境に留意した持続可能な社会を実現する事業活動を行っている。
- ・ グリーンローン等の対象として選定された事業は再生可能エネルギー。TESSの理念や方針、実際の事業活動に即したものを選定している。
- ・ 再生可能エネルギー事業は、高い環境改善効果（CO2削減効果）が見込まれるほか、環境面や社会面における潜在的にネガティブな効果に配慮して開発・運営が行われている。
- ・ 事業の選定は、事業開発本部が中心となり、エンジニアリング本部等の関連部署と協議したうえで事業計画を立案し、取締役会等（及び持株会社のテスホールディングス株式会社取締役会）にて決議するプロセスとなっている。
- ・ TESSの組織図は以下の通り。



調達資金の管理: Management of Proceeds

- ・ グリーンローン等で調達した資金は、ファイナンス関連契約およびプロジェクト関連契約の規定に基づきみやこSPの専用口座で管理され、当該グリーンプロジェクトのみを対象に充当される。
- ・ 調達資金の引き出しは、プロジェクトファイナンス契約の前提条件（CP）を充足していることの確認を経たうえで行われ、厳密に管理される。未充当資金は預金で管理する方針である。
- ・ 投資家に対しては、定期的なプロジェクトの進行状況の報告がなされ、資金の充当状況については、その都度、必要な承諾を得るとともに充当状況の報告がなされる予定である。

3. レポーティング: Reporting

- ・ みやこSPでは、グリーンローン等のレポーティングについて、EPC事業者であるTESSのホームページにて年に1回開示することを予定している。
- ・ レポーティングの主な内容は、①資金充当状況レポーティング、②インパクト・レポーティング（パフォーマンスを含む）、の2点である。
 - ①は、資金充当が完了するまで、プロジェクトの充当状況がレポートされる予定である。
 - ②は、プロジェクトの年間発電量およびCO2削減量が開示される予定である。
- ・ レポーティングの開示イメージは、以下の通り。

対象プロジェクト	プロジェクト 充当額	プロジェクト 充当割合	対象プロジェクト			初年度発電量 (kWh/年)	CO ₂ 削減効果 (t-CO ₂ /年)
北発電所	119.8	65.3%	再生可能 エネルギー	太陽光	売電中	23,495,619	8,153
南発電所	63.6	34.7%	再生可能 エネルギー	太陽光	売電中	45,494,151	15,787
ボンド総額	[183.4] 億円						

※ 個別発電所単位（上記イメージ）又はポートフォリオ全体単位のいずれかで開示予定

■セカンドオピニオン(適合性確認)

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法に則り、みやこSPの作成するグリーンローンフレームワークが、グリーンローン原則等に適合しているか否かの確認を行った。

1. 調達資金の使途: Use of Proceeds

グリーンローン等の調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、まず調達資金の充当先である対象事業が、環境問題の解決に資する事業である必要がある。

主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認
- ・ 本グリーンローン等の対象事業の内容の確認

評価

- ・ 本フレームワークでは、調達資金はTESSが開発する太陽光発電事所の開発資金に充当される。
- ・ 本件の対象事業は、再生可能エネルギー（太陽光発電事業）であり、十分な環境改善効果（CO2削減効果）が期待できるグリーン適格資産である。
- ・ R&Iは、(1) 対象事業から十分な環境改善効果が見込めるか、(2) 開発、運営時において環境面における潜在的にネガティブな効果への配慮がなされているかについて、対象事業に対するTESSの審査基準に関して面談や書面等にて確認を行った。
- ・ (1) の観点では、TESSによる太陽光発電所の開発実績、開発方針やO&M 体制等の確認を踏まえ、グリーンボンドの対象事業として、十分な環境改善効果（CO2削減効果）が期待できると判断した。
- ・ (2) の観点では、開発・運営時に必要な許認可の取得をはじめ周辺環境に配慮した対応がなされていることを確認し、環境面における潜在的にネガティブな効果への配慮がなされていると判断した。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス: Process for Project Evaluation and Selection

グリーンローン等の調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、発行体がなぜ対象事業を環境問題に資する事業であると考え、どのようにして選定したのかというプロセスが、明確かつ合理的である必要がある。

主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認
- ・ TESSの経営理念、環境方針

評価

- ・ 対象事業は、TESSの経営理念、ISO14001に沿った環境方針に則ったものとなっている。
- ・ 対象事業は、十分な環境改善効果が見込め、環境面や社会面における潜在的にネガティブな効果に対する配慮がなされている。
- ・ プロジェクトの評価と選定は、事業開発本部が中心となり、エンジニアリング本部等の関連部署と協議したうえで事業計画を立案し、経営会議（及び持株会社のテスホールディングス株式会社取締役会）にて決裁され、組織的な選定プロセスとなっている。

以上より、本フレームワークにおける対象事業の選定のプロセスは、グリーンローン原則等に則ったものとなっていると判断した。

3. 調達資金の管理: Management of Proceeds

グリーンローン等の調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、調達資金が他の事業に使われず、確実に対象事業に充当される必要がある。

主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認

評価

- ・ グリーンローン等で調達した資金は、みやこSPの専用口座で管理され、当該グリーンプロジェクトのみを対象に充当される。そのため、各グリーンローン等の調達資金は他のプロジェクトと混同することはない。
- ・ 調達資金の引き出しは、各プロジェクトファイナンス契約の前提条件（CP）を充足していることの確認を経たうえで行われ、厳密に管理される。
- ・ 未充当資金は短期の流動資産である預金で管理される。

- ・ 投資家に対しては、プロジェクトの進行状況および資金の充当状況に関して適宜必要な報告がなされ、適切に管理される。

以上より、フレームワークにおける調達資金管理の方針は、グリーンローン原則等に則ったものと判断した。

4. レポートニング: Reporting

グリーンローン等の調達資金が、調達後、環境問題の解決に資する事業に投資されたことが明らかとなるためには、どのような事業にいつ充当され、その結果どのような環境改善効果があったかを、発行体がレポートニングすることが期待される。

主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認
- ・ レポートニングの開示予定内容の確認

評価

- ・ 本グリーンローン等のレポートニングは、年に一度、TESSのホームページにて行われる予定である。
- ・ 内容は、ポートフォリオ単位で、資金充当状況レポートニングとインパクト・レポートニング（年間発電量およびCO2削減量）が行われるというものであり、妥当な内容となっている。

以上より、本フレームワークにおけるレポートニングは、グリーンローン原則等に則ったものとなっていると判断した。

<総合評価>

R&Iは、フレームワークがグリーンローン原則等に則ったものとなっていると判断した。

■ R&Iグリーンボンドアセスメント

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法に則り、グリーンローンにおいて予定されている貸付額や期間、具体的な対象プロジェクトの内容や充当スケジュール等が、本フレームワークの内容に則ったものとなっているか確認を行った。また、フレームワークの内容やグリーンローンにおける具体的な対応の内容を踏まえ、グリーンローンで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する評価を行った。

1. 調達資金の使途: Use of Proceeds

- ・ 本グリーンローンの対象プロジェクトは、福岡県京都群みやこ町に位置する開発中の太陽光発電事業（約60MW）である。本フレームワークにおける対象事業である太陽光発電所のみやこSPにかかる支出が対象として選定されており、グリーンローンフレームワークに則った内容となっている。
- ・ R&Iは、本フレームワークに対する評価と同様に、(1) 対象事業から十分な環境改善効果が見込めるか、(2) 開発、運営時において環境面における潜在的にネガティブな効果への配慮がなされているか、を確認した。
- ・ この結果、事業用地の確保、発電設備の内容、テクニカルレポートの内容、O&M体制等を踏まえ対象プロジェクトは十分な事業性を有し、環境改善効果（CO2削減効果）が見込まれると判断した。また、環境面における潜在的にネガティブな効果に対しても配慮して開発、運営がなされていること（地域住民及び隣接する河川への配慮等）をプロジェクト関連資料および実査により確認し、適切な環境への配慮がなされていると判断した。

以上より、本グリーンローンの資金使途は、環境問題の解決に資する程度が特に優れていると判断した。

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス: Process for Project Evaluation and Selection

- ・ 対象事業は、TESSの経営理念、ISO14001に沿った環境方針に則ったものとなっている。
- ・ 対象事業は、十分な環境改善効果が見込め、環境面や社会面における潜在的にネガティブな効果に対する配慮がなされている。
- ・ 本グリーンローンは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、事業開発本部と本プロジェクトの関連部署の協議のうえ、経営会議の決裁を経てプロジェクトが選定されていることを確認した。

R&Iは、本グリーンローンのプロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると判断した。

3. 調達資金の管理: Management of Proceeds

- ・ 本グリーンローンは、発行体が定めた本フレームワークおよび本件ファイナンス関連契約に基づき、本プロジェクト専用で調達資金が管理される予定であることを確認した。
- ・ 本プロジェクト総額は、本グリーンローンによる調達資金を上回っている。また、調達資金が充当されるタイミングについては、現在開発中の太陽光発電所の建設資金として充当される。調達資金全額の充

当は概ね2年以内に完了する予定である。

- ・ R&Iは、本グリーンローンの調達資金の管理方法は、適切に定められており、特に優れていると判断した。

4. レポートニング: Reporting

- ・ 本グリーンローンは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、年に1度、資金充当状況と環境改善効果を含むレポートニングが行われる予定であることを確認した。
- ・ R&Iは、本グリーンローンのレポートニング方針は、内容、頻度の面から優れていると判断した。

5. 発行体の環境活動

グリーンローンの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度は、発行体の環境活動への取組み姿勢や取組み実績が影響すると考えられる。これは、環境活動に関心が高く実績のある発行体の方が、調達資金を環境問題の解決に資する事業に充当し、遂行する可能性が高いと考えるためである。

- ・ TESSは、経営理念やISO14001に沿った環境方針を制定し、再生可能エネルギーの普及を通じて、地球環境に留意した持続可能な社会や低炭素社会への貢献を掲げている。
- ・ オイルショック後の日本において、コージェネレーションシステムによる省エネ技術、1990年代からは太陽光複合コージェネレーションシステム、CO2削減が叫ばれるFIT制度導入後は太陽光発電所、と時代と共に必要とされるエネルギー技術を提供してきた。今回のプロジェクトもその一環であり、持続可能な低炭素社会に貢献するものとする。
- ・ 2021年1月末までに、614件以上（総発電容量748MW）の太陽光発電システムの施工の豊富な実績を持つ。自らEPC・O&M（遠隔監視業務など）を担う案件も数多く手がけ、太陽光発電事業全般において高い専門性を有する。
- ・ TESSの親会社であるテスホールディングス株式会社は、2021年4月27日に東京証券取引市場第一部へ上場した。また、当社は事業活動が環境及び社会に与える影響を特定し、開示することが重要であると考えのもと、エクイティ・ファイナンスに対して、第三者評価を得ている。この取り組みは、エネルギー・環境分野の株式新規上場において、日本初としている。



以上より、TESSの環境活動への取組み姿勢は優れていると判断した。

<総合評価>

グリーンローンは、発行体が定めた本フレームワークに基づき発行される予定であり、グリーンローン原則等の4要件に適合したグリーンローンであると判断した。

また、R&Iは、R&I グリーンボンドアセスメントに則り、グリーンローンの評価を行った。各項目の評価を基に総合評価を行い、R&Iは評価対象のグリーンローンの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1（本評価）を付与した。各項目における評価は、下記の通りである。

【項目別評価】

各項目を5段階で評価し、（最上位）から（最下位）で表示している。

項目	評価	概要
調達資金の使途		対象となる太陽光発電所は、十分な環境改善効果が見込めるほか、環境面における潜在的にネガティブな効果に配慮して開発、運営がなされている。環境問題の解決に資する程度が特に優れていると判断した。
プロジェクトの評価と選定のプロセス		本グリーンローンのプロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると判断した。
調達資金の管理		本グリーンローンの調達資金の管理方法は、適切に定められており、特に優れていると判断した。
レポーティング		本グリーンローンのレポーティング方針は、内容、頻度の面から優れていると判断した。
発行体の環境活動		環境に関する方針・体制を構築し、事業を通じた環境活動を積極的に推進している。発行体の環境活動への取組み姿勢は、優れていると判断した。

R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法は以下のホームページに公開されています。

https://www.r-i.co.jp/rating/products/green_bond/assessment.html

【留意事項】

R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対するR&Iの意見です。R&Iグリーンボンドアセスメントでは、グリーンボンドフレームワークに関してのセカンドオピニオンを付随的に提供する場合があります。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&IはR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としておりません。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、資料・情報の不足や、その他の状況により、R&Iの判断でR&Iグリーンボンドアセスメントを保留したり、取り下げたりすることがあります。

R&Iは、R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報、R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントその他の意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やR&Iグリーンボンドアセスメントの使用、あるいはR&Iグリーンボンドアセスメントの変更・保留・取り下げ等に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。

【専門性・第三者性】

R&Iは2016年にR&Iグリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017年からICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則/ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。

R&Iの評価方法、評価実績等についてはR&Iのウェブサイト（<https://www.ri.co.jp/rating/esg/index.html>）に記載しています。

R&Iと資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。



グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム

独立した外部レビューフォーム

セクション 1. 基本情報

発行体名：合同会社福岡みやこソーラーパワー

グリーンボンドの ISIN 又は 発行体のグリーンボンド発行に関するフレームワーク名（該当する場合）：

独立した外部レビュー実施者名：格付投資情報センター

本フォーム記入完了日：2021年9月30日

レビュー発表日：2021年9月30日

セクション 2. レビュー概要

レビュー範囲

必要に応じて、レビューの範囲を要約するために以下の項目を利用又は採用する。

本レビューでは、以下の要素を評価し、グリーンボンド原則（以下、GBP）との整合性を確認した：

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

独立した外部レビュー実施者の役割

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： | |

注記：複数のレビューを実施又は異なる複数のレビュー実施者が存在する場合、それぞれ別々の用紙にご記入ください。

Latest update: June 2018

レビューのエグゼクティブサマリーおよび/またはレビュー全文へのリンク（該当する場合）

<セカンドオピニオン>

フレームワークがグリーンボンド原則 2018 及びグリーンローン原則 2020 に則ったものである旨のセカンドオピニオンを提供する。

<スコアリング/レーティング（格付け）：R&I グリーンボンドアセスメント>

R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに定める評価方法に従い、グリーンローンの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1（本評価）を付与した。

詳細はレポート本文を参照。

セクション 3. レビュー詳細

レビュー実施者には可能な限り以下の情報を提供し、レビュー範囲を説明するためにコメントセクションを利用するよう推奨する。

1. 調達資金の使途

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

<セカンドオピニオン>

レポート本文の「セカンドオピニオン」の「1. 調達資金の使途」を参照。

<R&I グリーンボンドアセスメント>

レポート本文の「R&I グリーンボンドアセスメント」の「1. 調達資金の使途」を参照。

GBP による調達資金の使途カテゴリ：

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止および管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源および土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上および水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング（環境配慮型ビル） |
| <input type="checkbox"/> 発行時には知られていなかったが現在 GBP カテゴリへの適合が予想されている | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： |

る、又は、GBP でまだ規定されていない
その他の適格分野

GBP の事業区分に当てはまらない場合で、環境に関する分類がある場合は、ご記入ください：

2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

<セカンドオピニオン>

レポート本文の「セカンドオピニオン」の「2. プロジェクトの評価と選定のプロセス」を参照。

<R&I グリーンボンドアセスメント>

レポート本文の「R&I グリーンボンドアセスメント」の「2. プロジェクトの評価と選定のプロセス」を参照。

評価と選定

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 十分な発行体の環境面での持続可能性に係る目標がある | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、定義された事業区分にプロジェクトが適合すると判断される |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの適格プロジェクトを定義した透明性の高いクライテリアがある | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、プロジェクトに関連する潜在的な ESG リスクは特定・管理される |
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のためのクライテリアの概要が、公表される | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： |

責任およびアカウンタビリティに関する情報

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 外部機関の助言または検証を受けた評価／選定基準である | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内で定められた評価基準である |
| <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： | |

3. 調達資金の管理

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

<セカンドオピニオン>

レポート本文の「セカンドオピニオン」の「3. 調達資金の管理」を参照。

<R&I グリーンボンドアセスメント>

レポート本文の「R&I グリーンボンドアセスメント」の「3. 調達資金の管理」を参照。

調達資金の追跡管理：

- グリーンボンドの調達資金は、発行体により適切な方法で分別又は追跡管理される
- 未充当資金について、想定される一時的な運用方法の種類が開示される

- その他（明記ください）：

追加的な開示：

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 将来の投資にのみ充当 | <input type="checkbox"/> 既存および将来の投資に充当 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別単位の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオ単位の支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオを開示する | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： |

4. レポーティング

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

<セカンドオピニオン>

レポート本文の「セカンドオピニオン」の「4. レポーティング」を参照。

<R&I グリーンボンドアセスメント>

レポート本文の「R&I グリーンボンドアセスメント」の「4. レポーティング」を参照。

調達資金の用途に関するレポーティング：

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個別債券単位 | <input type="checkbox"/> その他（明記ください）： |

レポーティングされる情報：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当した資金の額 | <input type="checkbox"/> 投資総額に占めるグリーンボンドによる調達額の割合 |
| <input type="checkbox"/> その他（明記ください）： | |

頻度：

- | | |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他（明記ください）： | |

環境改善効果に関するレポーティング：

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個別債券単位 | <input type="checkbox"/> その他（明記ください）： |

頻度：

- | | |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他（明記ください）： | |

レポーティングされる情報（計画又は実績）：

- | | |
|---|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 温室効果ガス排出量／削減量 | <input type="checkbox"/> エネルギー削減量 |
|---|-----------------------------------|

水使用量の減少

その他 ESG 指標（明記ください）：年間発電量

開示方法

財務報告書に掲載

サステナビリティ報告書に掲載

臨時に発行される文書に掲載

その他（明記ください）：ウェブサイト

レポーティングは外部レビュー済（該当する場合は、レポートのどの部分が外部レビューの対象であるか明記してください）：

該当する場合は、「有益なリンク」のセクションに、報告書の名称、発行日を明記してください。

有益なリンク（例えば、レビュー実施者の評価方法や実績、発行体の文書等。）

1. 評価手法及びサービス

<https://www.r-i.co.jp/rating/products/esg/index.html>

2. 評価実績

(1) グリーンファイナンス

<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/greenfinance/index.html>

(2) サステナビリティファイナンス

<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/sustainabilityfinance/index.html>

(3) ソーシャルファイナンス

<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/socialfinance/index.html>

該当する場合は、利用可能なその他外部レビューをご記入ください
実施されるレビューの種類：

セカンドオピニオン

認証

検証

スコアリング/レーティング（格付け）

その他（ご記入ください）：

レビュー実施者：

発表日：

GBP で定義された独立した外部レビュー機関の役割について

- (i) セカンドオピニオン：発行体の支配下でない環境面の専門性を有する機関がセカンドオピニオンを提供する。オピニオンの提供者は発行体のグリーンボンド・フレームワーク構築のためのアドバイザーから独立しているべきである。そうでなければ情報隔壁を設けるなど、セカンドオピニオンの独立性を確保するための措置をとることになる。オピニオンは通常はGBPへの適合性評価を基本とする。特に環境面での持続可能性に関する包括的な目標、戦略、方針、プロセスの評価と、調達資金を充当するプロジェクトの種類に応じた環境面の特徴に対する評価を含むことができる。
- (ii) 検証：発行体は、事業プロセスや環境基準などに関連づけて設定する基準に対して独立した検証を受けることができる。検証は、内部基準や外部基準あるいは発行体が作成した要求との適合性に焦点を当てるものになる。また原資産の環境面での持続可能性に係る特徴についての評価を検証と称し、外部クライテリアを参照することがある。さらにグリーンボンドで調達される資金の内部追跡管理方法とその資金の充当状況、環境面での影響、GBPのレポートイングとの適合性に関する保証や証明も検証と呼ぶことがある。
- (iii) 認証：発行体は、グリーンボンドやそれに関連するグリーンボンド・フレームワーク、または調達資金の用途について、一般に認知されているグリーン基準やグリーンラベルへの適合性に係る認証を受けることができる。グリーン基準やグリーンラベルは具体的なクライテリアを定義したもので、通常は認証クライテリアとの適合性を、検証などの手法を用いて、資格認定された第三者機関が確認する。
- (iv) スコアリング/レーティング（格付け）：発行体は、グリーンボンド、それに関連するグリーンボンド・フレームワーク、調達資金の用途などの特徴について、専門的な調査機関や格付機関の資格を有する第三者機関から、それぞれの機関が確立した評価手法に基づく査定や評価を受けることができる。評価結果には、環境面のパフォーマンスデータ、GBPに関連するプロセス、2°C目標のようなベンチマークなどに焦点を当てたものが含まれることがある。このようなスコアリングや格付は、信用格付（たとえその中に重要な環境面のリスクが反映されているとしても）とはまったく異なったものである。